

| Column |

ART & CULTURE around 芸劇

©菅原康太



2023年3月2日
「アーツアカデミー
10周年記念イベント」
にて記念撮影

人が人へとつないでいく「劇場を創る」という仕事 —東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修の10年—

舞台芸術界の制作やマネジメント人材の不足は積年の悩みである。舞台芸術の仕事に就きたい人はいても、多忙を極める現場に育てる余裕はない。このジレンマを解消すべく、東京芸術劇場は2013年に「アーツアカデミー 東京芸術劇場 プロフェッショナル人材養成研修」を開始した。劇場を学びの場とし、自発的、自律的に思考する舞台芸術人の育成を目指す。研修生は演劇制作・音楽制作・教育普及の各分野で、実務経験と座学を通して、舞台芸術のプロフェッショナルに必要な技能と知識を身につける。

去る3月2日、いまや全国の舞台芸術の現場等で活躍する同研修修了生約40名のうち22名が一堂に会し、アーツアカデミー10周年記念イベント「舞台芸術の未来を担う人々へ」が、東京芸術劇場で行われた。修了生と劇場のマネジメント職が、舞台芸術界の課題と未来について語らう趣向である。荻田伍館長の言葉で幕開け、第1部は野田秀樹芸術監督と修了生との質疑応答。やや緊張気味の修了生たちに対し、野田監督は積み上げられた質問紙片を取り出しては1つつづきさくさく答えていく。コロナ禍での演劇のインスタント化、時代の潮目の読み方、芸術監督に

なって変わったこと、注目する役者、昨今のハラスメント問題など、話題は多方面に及ぶ。「キャリアチェンジで舞台芸術界に飛び込む人への期待は？」との問いに、監督は「リスクを冒そうとする人はとてもよく考えるし、考えた末に実行する。そういう人にこそ劇場で活躍してほしい。公共劇場は事なかれ主義になりがちだから」と回答。最後は「まあいいかとなってしまわないよう、若い時の志を大事に」とエールで締めくくった。第2部は鈴木順子副館長、プロデューサーの内藤美奈子課長と修了生が意見交換。評価する人材の不足など鋭い問題提起もあり、立場を超えた議論の必要を実感した。

次代を担う修了生がかつての研修先に参集し、仲間や大先輩らと語らう初の試み。生成型AI等の進化で価値観の大転換が始まるなかであって、人々がリアルに集う劇場を創る仕事は、今後も人が人へとしづとく伝えていくに違いないと希望を感じた。その土台をつくる研修の地道な継続と人のつながりが、舞台芸術の未来をつなぐのではないだろうか。

若林朋子（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院教員）

※ 10周年記念冊子『アーツアカデミー 10周年。』と記念イベントのアーカイブ動画は、劇場 WEB サイトで公開中。 www.geigeki.jp/ch/ch1/e_arts_academy.html

INFORMATION

● 東京芸術劇場へご来館される皆さまは、当劇場WEBサイトの「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に伴う来館者及び公演等の主催者の皆さまへのお願い」や、館内掲示されている注意事項などをご確認ください。
http://www.geigeki.jp/info/covid19_notice/

● 東京芸術劇場 一時休館のお知らせ
東京芸術劇場は設備更新工事を行うため、以下の期間、休館いたします。
休館期間：2024年9月30日～2025年7月中（予定）
<http://www.geigeki.jp/info/20230403/>



〈鑑賞サポート〉について

東京芸術劇場では、一部の事業で、視覚・聴覚障害者のための舞台鑑賞サポートやヒアリンググループ、各種割引、託児サービスなどの〈鑑賞サポート〉を行っております。ぜひご利用ください。

詳細 ▶ 劇場HP内「鑑賞のサポート」ページ
www.geigeki.jp/access/support.html

掲載情報に変更がでる場合がございます。最新情報は、劇場や各主催者のHPなどをご確認ください。

次号の発行は2023年10月1日を予定しています。

東京 芸術 劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre